



ごあいさつ

保健医療学部長 大日向 輝美

9月6日の北海道胆振東部地震は、道内各地に甚大な被害をもたらしました。震源地を中心に多くの人命が失われ、全壊・半壊等の建物被害も広い地域に及んでいます。地震発生より2ヶ月が経過した現在も、4市町で150名を超える道民が避難所での暮らしを余儀なくされており、冬を間近に控えるこの時期、長引く避難生活による健康被害も心配されます。札幌医科大学は、一刻も早い復興・復旧のために、被災された方々の健康と生活を支援して参る所存です。



今回の地震では、家屋・家財に被害を受けた学生・教職員はいたものの、避難を要するレベルには至っておらず、大学の施設・設備への影響も修繕可能な程度でおさまりました。大学では、危機対策マニュアルを作成し地震等の災害発生に備えていたところ、このたびの地震で初めて実際の対応が求められることになりました。災害対応はおおむね順調に進められましたが、学生・教職員の安否確認や情報伝達の方法、災害備蓄、等々、様々な課題があることも判明し、防災体制の充実化をはかる必要性を改めて認識しました。世界各地で自然災害が多発する昨今、災害対策や減災活動への関心が高まっている反面、何をどのように備え、防災訓練はどう実施すればよいのかなど、具体的な行動に移すことは十分にできていなかったのではないかと反省されます。今回の地震を機に、防災・減災活動の重要性を再認識するとともに、災害は発生するものとの前提に立つて、準備を整えておくことが重要であると実感しております。

もう一つ強く感じたのは、災害医療教育の重要性です。本学では昨年度より医学部4年生、保健医療学部2年生の合同カリキュラムにおいて、附属病院の災害医療対策訓練を活用した災害医療教育を1日のプログラムで実施しています。しかし、災害時の医療支援には、現場の状況と地域のニーズを迅速に把握する即応性、状況に応じて臨機応変に行動できる柔軟性、資源の限られた状況下で専門的な知識と技術を的確に提供する実践力など、優れた資質が求められます。1日の学習で得られるものには限界があるため、災害医療にかかわる知識と技術を体系的かつ実践的に学ぶプログラムが必要です。保健医療学部では、災害時に対応できる基礎的な能力の育成をねらいに、新しいカリキュラムの検討を進めているところです。

冬が足早に近づいて参りました。保護者の皆さまにおかれましては、お身体を大切に自愛くださいますようお願いいたします。また、今後とも本学部の教育研究活動にご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【平成30年度 前期学事 実施報告】 (1~4学年)

(4学年共通)

4月 6日 入学式
4月 9日 ~ 4月11日 「保健医療総論1~4」
4月12日 ~ 前期講義開始
6月 7日 ~ 6月10日 大学祭
6月25日 大学記念日

(3年生)

7月31日 ~ 9月 2日 夏季休業
9月 3日 ~ 9月14日 前期定期試験
9月18日 ~ 臨地実習(看護)

(4年生)

4月16日 ~ 9月28日 臨床実習(作業)
5月 7日 ~ 8月 3日 " (理学)
7月23日 ~ 8月 3日 前期定期試験(看護)
8月 6日 ~ 8月19日 夏季休業(看護)
8月 6日 ~ 9月17日 " (理学)
7月30日 ~ 8月12日 " (作業)
8月20日 ~ 臨地実習(看護)

(1・2年生)

7月31日 ~ 9月 2日 夏季休業
9月 3日 ~ 9月14日 前期定期試験



看護学科長 城丸 瑞恵



木々の葉も色づき始め、秋の深まりを感じる時節となっただけで、保護者の皆様には、日頃より本学の教育にご支援賜り深く感謝申し上げます。

さて、9月に胆振東部地震が発生し、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。看護学科は幸いなことに学生・教職員共に大きな被害はなく安堵している次第です。建物・機器類も教育に支障をきたすような損壊はみられず、発災の翌週からほぼ通常の環境の中で、教育が行われております。ご心配をおかけしましたが、ご安心いただけましたら幸いです。

後期はどの学年も実習が行われます。1年生は1月に基礎看護実習1、2年生は2月に基礎看護実習2、3年生は9月から2月末にかけて小児看護実習・母性看護実習・成人看護実習

1・2、老年看護実習1・2、在宅看護実習が行われます。そして最終学年の4年生では、精神看護実習があり、加えて保健師選択コースの学生は公衆衛生に関連した実習に臨みます。

どの学生も実習前は表情が硬く緊張した様子が伺われますが、終了後は達成感にあふれ、頼もしい表情に変化していきます。このような成長の過程を教職員一同見守り、また支えていきたいと考えております。

未筆ながら、保護者の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。



3年生 学内での実習カンファレンスの様子

理学療法学科長 片寄 正樹



保護者の皆様には日頃より大変お世話になっております。9月6日の北海道胆振東部地震では大きな地震に続くブラックアウトというこれまでに経験のない大きな被害ができました。本学関係者、理学療法学科の学部生、大学院生、そして教職員には負傷等の被害はなかった状況ではありましたが、家屋や家財等の被害を受けたご家族の皆様も少なくなかったのではないのでしょうか。改めて被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、復興・再建に向けた新たな歩みを支援できればと思っております。

実は、今回のような震災においても理学療法士による迅速な活動が展開されています。超高齢化社会における大規模災害時には、高齢者の体調維持など発災直後からの迅速且つ組織的・継続的なリハビリテーション支援が非常に重要であるとされています。そのため、北海道災害リハビリテーション推進協議会（DoRAT）と北海道理学療法士協会の連携を基盤に、災害地への理学療法士派遣が進められてきました。支援内容も復興や再建に合わせて変化していきますが、理学療法士によるさらなる活動も期待されています。

作業療法学科長 仙石 泰仁



大学では前期試験が終わり、10月より後期の講義や演習等が始まっています。作業療法学科では今回の試験で不合格となった学生はいませんでした。試験を受けることができる出席日数に達していない学生がおり、1～2科目ですが試験を受験できず失格となってしまう。講義を欠席する理由は様々あると思いますが、学生としての基本的な生活管理ができていないことが懸念され、今後も指導をしていきたいと考えています。

9月には大きな地震と広範囲の停電があり、保護者の皆様もご心痛のことと思います。幸いにも本学部の学生に人的被害は無く安堵致しましたが、家屋の損害など被害のほどが案じられ、憂慮申し上げます。地震当日には10数名の学生が不安で大学に来ておりましたが、皆の顔が見られたことで安心した様子が伺えました。一方で、学生全員の安否

確認を電話や電子メールで行っていたために、全員の無事が確認できるまでに2日半の時間を要してしまいました。SNSを利用していただいていた理学療法学科では数時間で学生の状況が確認できていたこともあり、作業療法学科でも各学年で、学年担当教員を中心にlineのグループを作成することとしました。災害時に人々の支えとなる医療職になるためにも、まず、自身の安全や生活基盤の確保できる医療人となれるよう、職員・学生皆で日常の備えや行動について考える機会も今後作っていきたくと思っています。最後に後期は進級や卒業に向けて、学年ごとの重要なまとめの期間となります。保護者の皆様にも、本学科での教育にご協力いただき、晴れやかな新年度を迎えられますようご協力をお願いいたします。

研究紹介

* 保健医療学部各学科において取り組んでいる研究についてご紹介します。

家庭における災害の備えとその関連要因について



北海道胆振東部地震のお見舞いを申し上げます。保護者の皆さんの中には、地震が真冬に起こったならば、と想像してご家庭での対策を見直された方もいらっしゃるのではないかと思います。

私は小児看護学を教える中で、子どもが健康に育つために子どもと家族の生活習慣の形成に役立てるよう、いくつかの研究に携わってきました。今回は、幼稚園児の保護者を対象に行った家庭における災害への備えとその関連要因について調査研究を行いましたので、その結果について報告します。

対象は2016～2017年度に北海道A市の幼稚園に子どもを通わせている保護者で、幼稚園の協力を得て質問紙調査を行いました。質問内容は、家庭における災害への備え、保護者の生活習慣と基本属性でした。1,786部（有効回答率49.7%）の結果から、保護者は、災害に備えて約8割が懐中電灯や電池等の備えをしていましたが、飲料水の備蓄、災害発生時の家族間の連絡、防寒対策等の備えをしている者は半数以下と少ない結果でした。災害に対する通年の備えには、保護者の年齢、運動習慣が、寒冷期の備えでは、保護者の年齢、運動習慣、被災経験が関連要因であることが示されました。保護者が経済的な負担なく行える備蓄の提案、防寒対策の啓発、そして家庭内で災害への備えの話し合いを促す方が看護上の課題として示されました。

（看護学科：教授 今野 美紀）

身体諸機能の老化とそれによる健康への影響について



高齢者・地域健康科学領域では、身体諸機能の老化とそれによる健康への影響について、主に①運動学、②運動疫学の二つの手法を用いて研究を行っています。

高齢者の筋力やバランスなどの運動機能が老化により低下することはよく知られ、特に歩行機能は老化を最も代表し、高齢者の健康度を推定する有力な指標となっています。また、日常生活（社会参加も含む）が活発なほど健康度が高いこともわかっています。これらから、高齢者の健康維持・増進のためには、積極的に「歩く」ことが推奨されています。ところが外の環境は、不安定な路面や段差による転倒、人や物との接触（転倒）など、高齢者にとって厳しい環境であることは想像に難くありません。

以上のことより、当研究領域では、複雑環境下における高齢者の歩行の運動学的特徴を、三次元動作解析装置や視線追跡システムを用いて検討しています。今までの研究から、高齢者では、歩行者が接近する際には、静止物体を避ける時と比べてすれ違い直前で急に歩行速度を上げて避けること（動作に余裕がなく危険）がわかっています。

（理学療法学科：教授 古名 丈人）

手指の巧緻性に関わる運動・感覚機能の解析と体幹機能について

手は第二の脳とも言われ、非常に多くの感覚器が存在し、多くの情報から外界を知ることができます。また複雑で精巧な動きをすることが可能で、あらゆる日常生活の作業をすることができます。日常生活動作に手の使用は欠かせません。この手の作業を支えているのは上腕であり体幹です。両上肢を自由に運動し、最大限のパフォーマンスを発揮するためには体幹の安定性が不可欠となります。

私は、近年注目されている3軸加速度計を用いて手指の巧緻性（精巧な動き）に関わる運動・感覚機能の解析と、上肢の運動を支える体幹機能の研究を行なっております。高齢者や脳血管障害者が、安全に適切な運動を獲得できるようにするため、明らかになった運動戦略をもとに治療に役立てることを目的にしています。

（作業療法学科：講師 中村 充雄）



北海道胆振東部地震における学生対応について

平成30年9月6日の北海道胆振東部地震発生後、本学では、巡回により学内にいる学生を把握するとともに、実習で地域に出向いている学生の安否確認を行いました。停電復旧後は、学生サポートシステムを活用した安否確認を行い、その結果、幸いにも人命に関わる安否報告はありませんでした。

また、9月6日と9月7日の休校措置を決定し、放送と掲示により周知を行いました。両日は保健医療学部の定期試験日であったため、日程変更を行い、掲示と学生サポートシステムにより周知を行いました。

精神的なケアが必要な学生に対しては、保健管理センターからメール等によるアプローチを行っております。（事務局学務課）

行事紹介

保健医療セミナー 平成30年7月20日(金)

平成30年7月20日(金)本学教育研究棟 I (D101)にて平成30年度保健医療セミナーを開催しました。本セミナーは北海道における保健医療職の実際の活動を理解して専門職の具体的なイメージをもち、保健医療職の役割について考える機会として、保健医療学部2・3年生を対象に平成27年度より4回目を迎えました。今年度は、『地域における私の役割と人々とのつながり』と題して、道内の地域・在宅医療の現場において第一線で活躍されている3名のパネリストの方々にご講演をいただきました。パネリストには、松木由理氏(訪問看護ステーションくまさんの手 管理者:看護師)、綿谷美佐子氏(トレリハセンターまえた・株式会社ルシファ 代表取締役:理学療法士)、小岩伸之氏(八雲総合病院リハビリテーション室 室長:作業療法士)を迎え、講演およびパネルディスカッションを行いました。それぞれの講演では、これまで地域で実践されてきた取り組みに関して、具体例をもとに、学部生に対して、より分かりやすく、そして熱意あふれるお話をいただきました。また、パネルディスカッションでは、各々の地域における立場とその特徴的な役割について、活発な意見交換がなされました。

参加した学生からも「多様に活動されている方々の話が聞け、自分の視野を広げることができた」、「地域住民とのコミュニケーションの必要性を改めて感じた」などの感想が寄せられました。本セミナーは学部生にとって、それぞれの専門職の役割と特徴を学び、自身の将来像を考えるよい機会に繋がっていると考えます。



保護者懇談会 平成30年8月23日(木)

本学部では在籍している学生が個々の目標を達成し有意義な大学生活を過ごせるよう、大学と保護者の皆様との連携を深めていきたいと考えております。その機会の1つとして平成25年度より保護者懇談会を開催しております。今年度は30名の保護者の皆様にご参加いただき、新校舎の教育研究棟 I のC201講義室で行われました。

全体説明会では大日向学部長から開会の挨拶の後、仙石教務委員長から保健医療学部カリキュラムと学生の生活および学習状況について説明がなされました。続いて学部として取り組んでいる地域貢献活動について、地域貢献活動推進委員会の古名委員長より保健医療学部の地域支援と学生教育について紹介がありました。全体説明会の終了後、希望者を対象とした保護者と学生担当教員との個別相談会が行われました。ご参加いただいた保護者の方からは、「地域医療の重要性や教育との関わりについて理解できた」「丁寧な説明で安心した」などの感想が寄せられました。



【平成30年度 後期学事予定】(1~4学年)

(4学年共通)

9月25日~	後期講義開始
10月18日~10月20日	体育祭
12月7日	文化芸術祭
12月24日~1月6日	冬季休業
3月15日	卒業式

(1・2年生)

10月1日~10月5日	臨床実習(1年生理学)
1月21日~1月25日	臨地実習(1年生看護)
1月21日~1月25日	臨床実習(1年生作業)
1月28日~2月8日	臨地実習(2年生看護)
2月18日~3月1日	後期定期試験

(3年生)

9月18日~2月22日	臨地実習(看護)
10月1日~10月12日	臨床実習(作業)
1月28日~2月1日	後期定期試験(理学)
2月4日~3月1日	臨床実習(理学)
2月18日~3月1日	後期定期試験(作業)

(4年生)

8月20日~11月16日	臨地実習(看護)
--------------	----------

【お問い合わせ先】

札幌医科大学事務局学務課保健医療学部教務係
電話:011-611-2111(内線:21920)

